平成 30 年度（4 月入学）

宮崎大学大学院農学工学総合研究科
博士後期課程

学 生 募 集 要 項 （第２次）

（１）一般入試

（２）社会人入試

（３）外国人留学生入試

平成 29 年 9 月

宮崎大学大学院農学工学総合研究科

農学工学総合研究科博士後期課程の
アドミッションポリシー

Ⅰ．求める人材

宮崎大学大学院農学工学総合研究科では、農学と工学の学際的な知識を備え、それらを総合的に活用しようとする学習意欲の高い人材を国内外に広く求めています。また、社会人として経験を活かしながら高度な技術や知識を習得しようとしている人材も歓迎します。本研究科における教育研究領域との関連からは、以下のような人材を積極的に受け入れます。

① 低環境負荷・循環型社会の実現に意欲的な人材

② バイオマス資源の生産と利活用に取り組む人材

③ 地域社会基盤を保全し、持続型社会の構築に貢献できる人材

④ 安心・安全で持続型の生物生産システムの開発に関心の高い人材

⑤ 動植物・微生物の機能を生活向上に活かすことに関心の高い人材

⑥ ポストゲノム研究の成果を食料、環境、健康問題の解決に応用することに関心の高い人材

⑦ 水産資源の適正管理と持続的水産増養殖システムの開発に関心の高い人材

⑧ 新材料の創生及びエネルギー変換システムに貢献できる人材

⑨ 機械加工技術及び構造材料の設計・生産技術の開発に貢献できる人材

⑩ ソフトウエア技術・ハードウエア技術・情報ネットワーク技術・バイオインフォマティクス技術、情報処理システムの開発に関心の高い人材

Ⅱ．入学者選抜の基本方針

以上のような人材を入学者として選抜するために、出願者の学歴、研究歴、希望修学期間などに配慮し、以下のような基本方針にもとづいて入学者を選抜します。

① 同一年度内に複数回の入学試験を実施する

② 出願資格（一般、社会人、留学生）に応じた試験を実施する

③ 出願書類について審査し、試験結果と合わせて、出願者の能力、適性、意欲などを総合的に評価する

宮崎大学大学院農学工学総合研究科博士後期課程について

宮崎大学大学院農学工学総合研究科は、平成 19 年 4 月に設置された研究科である。
本研究科は、農学と工学の学問的背景と連携協力の実績を踏まえて、農学と工学が連携・融合した教育研究領域の深化を図り、広範な知識に基づいた総合的判断力と高度な研究能力を備え、技術・知識基盤社会の形成に資する高度専門技術者の養成を目指す。
このような人材を養成することにより、21 世紀の喫緊の課題である低環境負荷・持続型生産システムの構築、持続型地域社会が必要とする社会基盤の保全、動植物・微生物の機能を活かした新規機能性食品の開発、地域バイオマス資源の有用物質への変換、ナノテクノロジーを応用した機能性材料の創生、自然共生型エネルギーの活用とその変換技術、省エネルギー化・高度情報化された生産技術の開発、高度なソフトウエアを活用した情報処理システムの構築等の課題解決に貢献する。

1. 募集人員

専　　攻　　名	募集人員
資源環境科学専攻	若干名
生物機能応用科学専攻	若干名
物質・情報工学専攻	若干名

2. 出願資格

本学大学院農学工学総合研究科博士後期課程（以下「本研究科」という。）に出願できる者は、次のいずれかに該当する者とする。

(1) 一般入試

① 修士の学位又は専門職学位を有する者及び平成 30 年 3 月までに取得見込みの者
また、以下に該当する者は、出願資格認定の申請が必要となる。

② 大学卒業後、大学、研究機関、民間企業等の研究所、その他研究開発の施設において、入学時点で 2 年以上研究に従事した者で、研究業績を証明する書類（学術論文、研究報告書、著書、特許等）により、本研究科が、修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力を有すると認めた者（2 頁「(注)出願資格認定について」を参照）

③ 個別の入学資格審査により、本研究科が修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者で、平成 30 年 3 月末までに 24 歳に達する者（2 頁「(注)出願資格認定について」を参照）

(2) 社会人入試

① 修士の学位又は専門職学位を有する者及び外国において、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者で、その後、企業等に正規職員として勤務中であり、勤務成績が優秀であると所属長が認めた者で、在職のまま入学を希望する者
また、以下に該当する者は、出願資格認定の申請が必要となる。

② 大学卒業後又は外国において学校教育における 16 年の課程を修了した後、企業等に正規職員として勤務し、その勤務年数の中に、大学、研究機関、民間企業等の研究所、その他研究開発の施設において入学時点で 2 年以上研究に従事し、勤務成績が優秀であると所属長が認め、在職のまま入学を希望する者で、研究業績を証明する書類（学術論文・研究報告書・著書・特許等）により、本研究科が修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力を有すると認めた者（2 頁「(注)出願資格認定について」を参照）

③ 企業等に正規職員として勤務し、勤務成績が優秀であると所属長が認め、在職のまま入学を希望する者で、かつ個別の入学資格審査により本研究科が修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力を有すると認めた者で、平成 30 年 3 月末までに 24 歳に達する者（2 頁「(注)出願資格認定について」を参照）

(3) 外国人留学生入試

① 外国において修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者及び平成 30 年 3 月までに授与される見込みの者

② 外国の学校、外国の大学院の課程を有する教育施設又は国際連合大学の教育課程を履修し、大学院設置基準第 16 条の 2 に規定する試験及び審査に相当するものに合格し、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると本学研究科が認めた者（※これにより出願する者は、事前に本学工学部教務・学生支援係に問い合わせること。）
また、以下に該当する者は、出願資格認定が必要となる。

③ 外国において学校教育における 16 年の課程を修了した後、大学及び研究機関並びに民間企業等の研究所、その他研究開発の施設において入学時点で 2 年以上研究に従事した者で、研究業績を証明する書類（学術論文・研究報告書・著書・特許等）により、本研究科が修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力を有すると認めた者（2 頁「(注)出願資格認定について」を参照）

④ 個別の入学資格審査により本研究科が修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力を有すると認めた者で、平成 30 年 3 月末までに 24 歳に達する者（2 頁「(注)出願資格認定について」を参照）

（注）出願資格認定について

出願資格(1)一般入試の②～③と(2)社会人入試の②～③及び(3)外国人留学生入試の③～④により出願をしようとする者は、「入学資格認定申請書（様式 5-(1)）」、「入学試験出願資格認定調書（様式 5-(2)または様式 5-(3)）」、「研究業績調書（様式 5-(4)）」（添付の用紙又は同等様式の用紙）に研究業績を証明する書類又は写しを添付し、宮崎大学工学部教務・学生支援係に持参又は郵送で提出すること。※日程については、別紙「入試日程」を参照ください。

出願資格認定の結果は本人に通知する。なお、提出された書類等についてはいかなる理由があっても返還しない。

3．出願資格認定申請書類・出願書類の受付期間：別紙「入試日程」を参照ください

(1) 持参する場合は 9 時から 17 時までとする。**郵送の場合は必ず書留速達**とし、受付期間内 17 時までに必着のこと。なお、**受付期間内に到着しない場合は受理しないので、郵便事情を考慮して十分余裕をもって発送すること。**

(2) 出願書類受付後の記載事項の変更および出願書類の返還は認めない。

(3) 提出先：宮崎大学工学部 教務・学生支援係（農学工学総合研究科担当）

志願者区分	出願資格認定に必要な書類	出願書類の受付期間
修士の学位又は専門職学位を有する者又は出願年度の 3 月までに修了予定の者	不要	別紙「入試日程」を参照ください
出願資格認定を必要とする者	様式 5-(1) ～ 様式-5(4)	

※募集要項の請求は、工学部教務・学生支援係宛に行うこと。郵送の場合は、返信用封筒（角形 2 号に 530 円切手貼付［250 円切手+280 円切手《速達料金》］）を同封すること。

４．出願書類

出願書類	摘　　要
入学志願票	本要項の添付用紙を使用すること。
受験票・写真票	本要項の添付用紙に所要事項を記入し、写真を所定の欄に貼付すること。 写真は、正面上半身無帽（縦 4 ㎝×横 3 ㎝）で出願以前 3 ヶ月以内に撮影したものを使用すること。
履歴書（様式 1）	本要項の添付用紙又は同等様式の用紙を使用すること。
研究計画書（様式 2）	本要項の添付用紙又は同等様式の用紙に、希望する研究テーマ又は分野について研究指導を希望する教員と相談の上、目的及び構想を 2,000 字（英語の場合は 1,200 words）以内で記入すること。
職務経歴書 （様式 3-(1)）	社会人入試で出願する者は，本要項の添付用紙又は同等様式の用紙に、職務内容、学術論文研究報告、著書、特許・実用新案等社会における研究活動状況を示すものを記入すること。
就学許可書 （様式 3-(2)）	社会人入試で出願する者は、入学試験に合格した場合に企業に在職したまま、本研究科で勉学することを許可する旨の書類を勤務先の所属長等が作成し、厳封したもの。
推薦書 （様式 3-(3)）	外国人留学生入試で出願する者は、本要項の添付用紙又は同等様式の用紙に、出身大学の指導教員又は勤務先の所属長等が作成し、厳封したもの。
修士学位論文の要旨 （様式 4）	入試方法を問わず、修士の学位又は専門職学位を有する者及び平成 30 年 3 月までに取得見込みの者と、外国において修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者及び平成 30 年 3 月までに授与される見込みの者は、本要項に添付の用紙又は同等様式の用紙に、2,000 字(英語の場合は 1,200 words)以内で記入すること。 なお、関連する論文・学術・講演・特許等がある場合はその写しを添付すること。
修士課程修了（修了見込み）証明書又は出願資格認定書	出身大学長（研究科長）が作成したもの（ただし、本学大学院修士課程を修了見込みの者については、提出を要しない。）又は本研究科が作成した出願資格認定書。
成績証明書	学部及び大学院の成績。特に様式は指定しないが、厳封したもの。
在留カードの写し	日本に在住する外国人にあっては、在留カードの写しを添付すること。
入学試験検定料 （30,000 円）	本学所定の振込依頼書を使用し、検定料を納入すること。 ただし、国費外国人留学生及び平成 30 年 3 月に本学大学院修士課程を修了し、引き続き本研究科に進学する者は不要。
払込証明書貼付台紙	本学所定の用紙を使用し、検定料払込証明書（Ｃ票）を貼付すること。
受験票返信用封筒	受験票の郵送を希望する者は、市販の封筒（長形 3 号）に自分の住所・氏名・郵便番号を記入し、372 円切手（92 円切手+280 円切手《速達料金》）を貼付したものを添付すること。

本研究科所定の用紙又は同等様式の様式への記入の際は、タイプライター、ワードプロセッサーを用いて記入しても差し支えない（**ただし、入学志願票、受験票、写真票は自筆とする**）。

※注意事項

納入後の検定料は、次の場合を除き、いかなる理由があっても返還しない。

(1) 検定料を振り込んだが本学に出願しなかった（出願書類等を提出しなかった又は出願が受理されなかった）場合

(2) 検定料を誤って二重に振り込んだ場合

返還請求の方法

検定料返還請求願（様式は問いません。返還請求理由、氏名（フリガナ）、現住所、電話番号、検定料返還先銀行口座情報（銀行名，支店名，口座種別，口座番号，口座名義（カタカナ））を明記したもの）を作成し、**必ず「C 票　検定料振込証明書」を添付の上、**以下宛てへ平成 30 年 3 月 31 日（必着）までに、速やかに郵送してください。

平成 30 年 4 月 1 日以降に申し出られた場合、返還に応じることはできませんのでご了承ください。

〒889-2192　宮崎市学園木花台西 1 丁目 1 番地
宮崎大学財務部財務課出納係　TEL：(0985)58－7122（土曜・日曜及び祝日を除く）

5．入試方法

(1) 一般入試

選考は、学力検査及び書類審査により行う。学力検査は、口述試験により行う。

(2) 社会人入試

選考は、学力検査及び書類審査により行う。学力検査は、口述試験により行う。

「短期履修制度」及び「長期履修制度」については、6 頁「10.短期履修制度について」及び「11.長期履修制度について」を参照すること。

(3) 外国人留学生入試

選考は、学力検査及び書類審査により行う。学力検査は、口述試験により行う。

なお、宮崎大学と交流協定を結んでいる大学に在籍している者は、在籍する大学においてインターネットを用いたテレビ会議等による口述試験を受験することができる。

この試験を希望する者は、希望指導教員とあらかじめ十分に相談した上、出願時に申し出ることとする。

口述試験の内容（一人約 30 分）

- 一般入試における口述試験は、修士論文又はそれに相当する研究成果、志望する研究分野に関する科目、入学後の研究計画等について行う。
- 社会人入試における口述試験は、修士論文又はそれに相当する研究成果、志望する研究分野に関する科目、研究経歴、入学後の研究計画等について行う。
- 外国人留学生入試における口述試験は、修士論文又はそれに相当する研究成果、志望する研究分野に関する科目、入学後の研究計画等について行う。

6．試験日程及び試験場

試験日は、別紙「入試日程」を参照ください	口述試験	宮崎大学 工学部 (宮崎市学園木花台西 1 丁目 1 番地)

なお、試験時間及び試験室等については出願受理後、本人に通知するとともに、試験当日、工学部の講義棟入り口付近に掲示する。

7．障がい等のある入学志願者の事前相談

下表のような障がい等があり、受験上の配慮及び修学上の配慮を必要とする者は、出願書類提出前に本学学生支援部入試課へ相談すること。

(1) 相談期限

相談期限については、別紙「入試日程」を参照ください。
ただし、期限を過ぎている場合又は出願締切後に不慮の事故のため受験上・修学上の配慮を必要とする場合については、早急に本学学生支援部入試課へ連絡すること。

(2) 相談方法

宮崎大学のホームページから、相談申請書をダウンロードして次の内容を記載し、医師の診断書等を添えて提出すること。(郵送可)

①氏名・志望専攻・志望コース
②障がい等の種類・程度
③受験上・修学上の配慮を希望する事項
④出身学校等でとられていた配慮事項
⑤日常生活の状況
⑥住所及び連絡先の電話番号

なお、必要な場合は本学において志願者又はその立場を代弁し得る関係者との面談等を行うこともある。
※相談申請書ダウンロード先：http://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/exam/1789-2
(「宮崎大学」→「入試情報」→「試験・入学に関する情報」→「障害者支援」)

(3) 相談先

〒889-2192　宮崎市学園木花台西１丁目１番地
宮崎大学学生支援部入試課
電話　0985-58-7138　　FAX　0985-58-2865

区　　分	障がいの程度
①視覚障がい	両眼の視力がおおむね０.３未満のもの又は視力以外の視機能障がいが高度のもののうち，拡大鏡等の使用によっても通常の文字，図形等の視覚による認識が不可能又は著しく困難な程度のもの
②聴覚障がい	両耳の聴力レベルがおおむね６０デシベル以上のもののうち，補聴器等の使用によっても通常の話声を解することが不可能又は著しく困難な程度のもの
③肢体不自由	１．肢体不自由の状態が補装具の使用によっても歩行，筆記等日常生活における基本的な動作が不可能又は困難な程度のもの ２．肢体不自由の状態が前号に掲げる程度に達しないもののうち，常時の医学的観察指導を必要とする程度のもの
④病弱	１．慢性の呼吸器疾患，腎臓疾患及び神経疾患，悪性新生物その他の疾患の状態が継続して医療又は生活規制を必要とする程度のもの ２．身体虚弱の状態が継続して生活規制を必要とする程度のもの
⑤発達障がい	自閉症，アスペルガー症候群，広汎性発達障がい，学習障がい，注意欠陥多動性障がいのため配慮を必要とするもの
⑥その他	①～⑤の区分以外の者で配慮を必要とするもの

備考　１．視力の測定は，万国式試視力表によるものとし，屈折異常があるものについては，矯正視力によって測定する。
２．聴力の測定は，日本工業規格によるオージオメータによる。

8．合格発表

合格発表日（別紙「入試日程」を参照）の午前 10 時に、合格者の受験番号を農学部玄関及び工学部教務・学生支援係の横に掲示するとともに、合格者には合格通知書を送付する。なお、電話等による問い合わせには応じない。

※合格した際、受験票は入学手続時に使用するので、大切に保管すること。

9．入学手続・入学料・授業料

(1) 合格者に対し、入学手続関係書類を送付するので、所定の期間内に入学手続を行うこと。

(2) 入学料　　282,000 円

授業料　（前期）267,900 円・（後期）267,900 円

ただし、改定により変更になる場合がある。

授業料の納入は、新学期開始後となる。原則として、預金口座からの「口座振替」とする。

（初年度の口座振替日は 5 月下旬頃の予定）

※1．入学料については、国費外国人留学生及び平成 30 年 3 月本学大学院修士課程を修了し、引き続き本研究科に進学する者は不要。

2．国費外国人留学生の授業料は不要。

3．「11. 長期履修学生について」に示す長期履修学生として認められた者の授業料額については、宮崎大学財務部財務課出納係に問い合わせること。

4．納入された入学料は、次の場合を除き、いかなる理由があっても返還しない。

(1) 入学手続をしなかった場合

(2) 入学料を誤って二重に払い込んだ場合

10．短期履修制度について

社会人入試には、すでに相当程度研究業績があり、1 年もしくは 2 年以内に博士論文を仕上げることが可能と事前審査で判断された志願者を対象に、標準修学年限以内での学位取得を可能とする道「短期履修制度」も開かれている。この制度の適用を希望する者は、指導予定教員に申し出て、提出書類及び提出期限を確認すること。(詳細は工学部教務･学生支援係に問い合わせること。)

11．長期履修制度について

職業を有している等の事情により、規定する標準修業年限（3 年）を越えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し課程を修了することを希望し、申請が認められた者を長期履修学生という。

なお、長期履修を希望する者の資格及び申請手続きについては以下のとおりである。

（資格）次のいずれかに該当する者

(1) 職業を有する者（自営業及び臨時雇用を含む。ただし臨時雇用は単発的なものを除く）

(2) 家事、育児、介護等を行う必要がある者

(3) その他農学工学総合研究科長が長期履修することが必要と認めた者

（申請手続き）

(1) 申請書類

・長期履修申請書（様式 6）

・長期履修申請許可書（様式 7）

(2) 提出期限

・1 年次から希望する者は、本研究科出願時

・2 年次及び 3 年次から希望する者は、適用する年次の前年度の、4 月入学生は 1 月末日まで、10 月入学生は 7 月末日まで

１２．個人情報の取扱いについて

(1) 個人情報については、「独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律」及び「国立大学法人宮崎大学個人情報保護規則」に基づいて取り扱います。
(2) 出願に当たってお知らせいただいた氏名、住所その他の個人情報については、
①入学者選抜（出願処理、選抜実施）、②合格発表、③入学手続業務を行うために利用します。
(3) 入学者選抜に用いた試験成績は、今後の入学者選抜方法の検討資料の作成のために利用します。
(4) 上記（２）及び（３）の各種業務での利用に当たっては、一部の業務を本学より該当業務の委託を受けた業者において行うことがあります。
(5) 出願に当たってお知らせいただいた個人情報は、入学者のみ①教務関係（学籍、修学指導等）②学生支援関係（健康管理、就職支援、授業料免除・奨学金申請等）、③授業料徴収に関する業務を行うために利用します。

１３．出願書類提出先・問い合わせ先

〒889-2192　宮崎市学園木花台西１丁目１番地
宮崎大学工学部教務・学生支援係（農学工学総合研究科担当）
電話（0985）58 - 7870（ダイヤルイン）　FAX（0985）58 - 7287

※入学料・授業料に関する問い合わせ先
宮崎大学財務部財務課出納係　電話（0985）58 - 7122（ダイヤルイン）

１４．所属教員と主な研究課題

専攻	教育コース	職名	所属教員	主な研究課題
資源環境科学	環境共生科学	教授	明石　良	植物遺伝資源とバイオテクノロジーに関する研究
		教授	石井　康之	耕地および草地における環境共生的飼料資源生産に関する研究
		教授	伊藤　哲	経営林生態系の生物多様性保全に関する研究
		教授	稲垣　仁根	流域物質循環システムにおける環境共生型水理構造物の最適設計に関する研究
		教授	入江　光輝	水資源・河川管理に関する研究
		教授	宇田津 徹朗	東アジアにおける環境と共生した水田稲作技術の変遷に関する研究
		教授	亀井　一郎	森林微生物機能を用いた木質バイオマスの利用ならびに環境浄化技術開発に関する研究
		教授	亀井　健史	産業廃棄物のリサイクルによる持続型社会構築への貢献に関する研究、地盤災害の軽減と復旧のための地盤工学
		教授	雉子谷 佳男	木本植物の木部形成と木材材質の変動に関する研究
		教授	塩盛 弘一郎	マイクロカプセル化による環境保全型農業製剤の開発と機能化
		教授	清水　收	山地流域における土砂動態と土砂災害軽減に関する研究
		教授	鈴木　祥広	水環境における水質保全と修復技術の開発に関する研究
		教授	高木　正博	森林生態系における物質循環に関する研究
		教授	多炭　雅博	衛星リモートセンシングを利用した水資源管理に関する研究
		教授	土手　裕	家畜ふんのリサイクルに関する研究
		教授	西脇　亜也	環境共生型技術を活用した生態学的農法に関する研究
		教授	平田　昌彦	植物－動物－土壌－環境系のシステム分析に関する研究
		教授	藤掛　一郎	木材生産と森林環境保全を両立させる人工林経営と地域林業に関する研究
		教授	松下　洋一	樹木・草本バイオマスの成分の分離、化学変換および化学的利用に関する研究
		教授	光田　靖	森林の多面的機能に配慮した森林計画に関する研究
		教授	村上　啓介	沿岸域における波浪災害軽減技術に関する研究
		教授	森田　千尋	鋼橋梁の構造解析と健全度評価に関する研究
		教授	山本　直之	環境共生型物質循環システムの経営経済的評価に関する研究
		准教授	井戸田 幸子	耕地および草地における作付体系と肥培管理に関する研究
		准教授	大島　達也	環境共生型の生体分子複合体の開発に関する研究
		准教授	狩野　秀之	持続可能な食料供給システムに関する経済分析
		准教授	櫻井　倫	林業の生産基盤と作業に関する研究
		准教授	嶋本　寛	持続可能な交通システムに向けた評価手法に関する研究
		准教授	関戸　知雄	廃棄物処理残渣の有効利用と環境影響に関する研究
		准教授	竹下　伸一	流域における水・気候資源の評価に関する研究
		准教授	飛佐　学	草地生態系における土・土壌微生物－草の相互関係に関する研究
		准教授	李　春鶴	高性能コンクリートの開発および性能評価に関する研究
		講師	平田　令子	野生動物の保護・管理と森林生態系の保全に関する研究
		助教	大榮　薫	水環境における有害物質の除去技術の開発に関する研究
		助教	権藤　崇裕	草類の分子育種とその安全性評価に関する研究
		助教	糠澤　桂	河川環境・生物多様性の保全に向けた評価手法の開発

専攻	教育コース	職名	所属教員	主な研究課題
資源環境科学	持続生産科学	教授	家入　誠二	生物経済モデルを用いた家畜と環境との相互作用に関する研究
		教授	大野　和朗	保全的生物的防除を基幹とした持続的害虫管理に関する研究
		教授	川島　知之	飼料自給率向上と畜産分野からの温室効果ガス削減に関する研究
		教授	河原　聡	食品栄養学の観点からの畜産食品の品質評価とその改変
		教授	國武　久登	果樹遺伝資源を利用した環境低負荷型品種の開発に関する研究
		教授	佐伯　雄一	ダイズ根粒菌のゲノム生態学的研究
		教授	圖師　一文	園芸生産物の機能性・食味成分向上に関する研究
		教授	竹下　稔	植物-ウイルス間相互作用とウイルス病害防除に関する研究
		教授	續木　靖浩	持続型生産を目指した動物生産における生殖制御に関する研究
		教授	鉄村　琢哉	環境低負荷型果樹栽培システムの開発に関する研究
		教授	湯淺 高志	植物の環境ストレス耐性と栄養シグナル応答の研究
		准教授	井口　純	細菌ゲノムの多様性解明と分子疫学的解析への応用に関する研究
		准教授	石田　孝史	家畜の育種改良における統計遺伝学および分子遺伝学的研究
		准教授	稲葉　丈人	植物細胞におけるプラスチド形成機構に関する研究
		准教授	稲葉　靖子	観葉植物の開花結実における熱産生機構とその利用に関する研究
		准教授	木下　統	農作業の安全性・快適性に関する研究
		准教授	佐々木　羊介	生産疫学を用いた産業動物の生産効率向上に関する研究
		准教授	高橋　俊浩	動物生産における栄養制御に関する研究
		准教授	仲西　友紀	畜産食品の機能性に関する研究
		准教授	平野　智也	園芸作物の有性生殖機構に関する研究
		准教授	本勝　千歳	環境変化に対応した新規熱帯果樹の導入と持続的生産に関する研究
		准教授	山本　昭洋	様々な環境下における植物の生長制御に関する研究
		講師	坂本　信介	家畜，動物園動物，野生動物の行動と生態およびこれらの動物の環境管理に関する研究
		助教	高橋　伸弥	最適制御を応用したロバスト制御系設計の研究
		助教	徳永　忠昭	効率的な優良家畜集団造成に関する研究
生物機能応用科学専攻	生命機能科学	教授	榊原　啓之	生物時計を考慮した機能性食品研究
		教授	榊原　陽一	ポストゲノム時代のタンパク質の機能に関する研究
		教授	窄野　昌信	食品成分による脂質代謝調節に関する研究
		教授	山﨑　正夫	機能性脂質の体調調節に関する研究
		教授	湯井　敏文	糖鎖、蛋白質等の生体高分子の立体構造と生命機能に関する研究
		教授	横井 春比古	微生物機能を活用する有用物質生産及び環境保全に関する研究
		教授	吉田 ナオト	微生物機能を活用した環境修復技術開発
		准教授	井田　隆徳	新規生理活性ペプチドの探索
		准教授	江藤　望	細胞老化に起因する炎症反応に関する研究
		准教授	菅本　和寛	生物活性天然化合物の合成と評価に関する研究
		准教授	西山　和夫	食品成分の化学構造と生理活性の研究
		准教授	服部　秀美	バイオマスを利用した生体材料の開発及び応用研究
		准教授	廣瀬　遵	芳香環二酸素添加酵素の生物機能に関する研究
		助教	黒木　勝久	生理活性物質の代謝酵素に関する研究
		助教	宮武　宗利	微生物の機能解析と環境保全への応用

専攻	教育コース	職名	所属教員	主な研究課題
生物機能応用科学専攻	水域生物科学	教授	伊丹　利明	水域生物における生体防御機能とその応用技術に関する研究
		教授	岩槻　幸雄	魚類の多様性、分類、資源、及び保全に関する研究
		教授	内田　勝久	水域動物の成長・繁殖生理と内分泌制御機構に関する研究
		教授	香川　浩彦	水域生物における繁殖生理機構とその応用技術に関する研究
		教授	酒井　正博	水域生物のゲノム解析に関する研究
		教授	田中　竜介	水産食品の高度利用に関する研究
		教授	幡手　英雄	水域生物の有用成分（機能）に関する研究
		教授	林　雅弘	水域生物が生産する機能性成分の利用に関する研究
		教授	吉田　照豊	水域生物における病原微生物による感染症に関する研究
		准教授	河野　智哉	水域生物の生理活性物質による免疫制御機構に関する研究
		准教授	田岡　洋介	海洋環境のおける微生物の動態と有効利用に関する研究
		准教授	引間　順一	水圏生物における自然免疫メカニズムに関する研究
		准教授	深見　裕伸	サンゴの生態・分類・系統および集団遺伝学的研究
		准教授	安田　仁奈	水産無脊椎動物の集団遺伝構造及び分子進化に関する研究
		准教授	Urbanczyk Henryk	海洋性細菌の多様性と進化に関する研究
		助教	村瀬　敦宣	河口域を含む海岸環境における生態学的研究
物質・情報工学専攻	新材料エネルギー工学	教授	五十嵐 明則	原子衝突の理論的研究
		教授	大崎　明彦	プラズマ中の原子分子素過程に関する研究
		教授	金子　宏	太陽熱化学による燃料生産と蓄熱に関する研究
		教授	酒井　剛	固体高分子型燃料電池用電極触媒の開発
		教授	迫田　達也	電気エネルギーの効果的運用と保守に関する研究
		教授	白上　努	金属錯体を利用した光機能性新材料開発に関する研究
		教授	西岡　賢祐	高品質半導体デバイスの作製に関する研究
		教授	廿日出　勇	銀河系外天体の観測による、宇宙における物質・ｴﾈﾙｷﾞｰ変換に関する研究
		教授	林　則行	次世代電気エネルギーシステムの研究
		教授	福山　敦彦	非輻射遷移検出を利用した半導体薄膜の評価研究
		教授	前田　幸治	蛍光材料及び半導体薄膜の光学的および構造的評価に関する研究
		教授	松田　達郎	ハドロン粒子の構造および分光学に関する研究
		教授	山内　誠	天体現象におけるエネルギー変換に関する研究
		教授	横谷　篤至	高ｴﾈﾙｷﾞｰﾌｫﾄﾝを利用した光物質ﾌﾟﾛｾｽ技術とその応用に関する研究
		教授	吉野　賢二	カルコパイライト型化合物半導体材料の研究
		准教授	荒井　昌和	光センシング用半導体デバイスと結晶成長の研究
		准教授	井上　謙吾	微生物燃料電池の基礎研究と実用化
		准教授	奥山　勇治	酸化物のイオン輸送特性と電気化学セルへの応用
		准教授	加来　昌典	レーザー生成プラズマを用いた極端紫外光源の開発とその応用
		准教授	甲藤　正人	高強度レーザーの開発とその応用に関する研究
		准教授	境　健太郎	新規機能性半導体材料の開発と物性評価に関する研究
		准教授	鈴木　秀俊	超高効率集光型多接合太陽電池用新材料の研究
		准教授	前田　幸重	原子核における核力の少数多体効果の実験的研究
		准教授	松永　直樹	構造用セラミックスへの生体親和性付与に関する研究
		准教授	松本　仁	光機能性両親媒性化合物の合成と組織化に関する研究
		准教授	森　浩二	銀河系内天体の観測による宇宙のエネルギー循環システムの研究
		助教	亀山　晃弘	光ファイバーセンサーの開発とその応用
		助教	長田 尚一郎	複雑形状に対する渦電流非破壊検査に関する研究

専攻	教育コース	職名	所属教員	主な研究課題
物質・情報工学専攻	生産工学	教授	岡崎　直宣	セキュアネットワークの構築に関する研究
		教授	川末 紀功仁	生産工学における三次元計測とキャリブレーション
		教授	河村　隆介	熱応力解析法とその固体力学的挙動の解明や構造健全性評価への応用
		教授	佐藤　治	マニピュレータの最適制御に関する研究
		教授	申　炳録	流体力学の工学的応用に関する研究
		教授	鄧　鋼	機械要素の疲労強度評価に関する研究
		教授	穂高　一条	再生可能エネルギーシステムのためのパワーエレクトロニクスの数理と制御
		准教授	李　根浩	ロボティクスとITの融合
		准教授	池田　諭	確率的アルゴリズムの最適化に関する研究
		准教授	大西　修	精密微細加工に関する研究
		准教授	各務　聡	宇宙用小型ロケット推進機とスマートな推力測定装置に関する研究
		准教授	片山　徹郎	ソフトウェアの生成支援と信頼性向上に関する研究
		准教授	木之下 広幸	廃棄GFRPを再利用した材料開発とその応用に関する研究
		准教授	長瀬　慶紀	エンジン燃焼室の熱伝達に関する研究
		准教授	盆子原 康博	非線形振動現象を利用した機械システムの開発
		助教	山子　剛	生体機械工学に基づいた医療機器の研究開発
		助教	山場　久昭	計算機による生産システムの設計運用支援に関する研究
物質・情報工学専攻	数理情報工学	教授	飯田　雅人	偏微分方程式を利用した個体群ダイナミクスの研究
		教授	田村　宏樹	生体信号を用いたインターフェイス機器に関する研究
		教授	淡野　公一	アナログ集積回路の高性能化および高機能化に関する研究
		教授	辻川　亨	反応拡散方程式の縮約系に関する研究
		教授	Thi Thi Zin	画像処理応用に関する研究
		教授	椋木　雅之	画像認識，コンピュータビジョン，映像メディア処理に関する研究
		教授	山森　一人	ﾆｭｰﾗﾙﾈｯﾄﾜｰｸ・進化型計算の高速並列処理と応用に関する情報工学的研究
		教授	横田　光広	数値シミュレーションによる光導波路の特性解析に関する研究
		准教授	青木　謙二	計算科学的手法による視覚情報処理メカニズムの研究
		准教授	出原　浩史	反応拡散系におけるパターン形成の数理
		准教授	梅原　守道	圧縮性粘性流体の運動の数学解析
		准教授	今　隆助	生物現象の数理モデル化と数理解析に関する研究
		准教授	坂本　眞人	オートマトンと計算の複雑さに関する研究
		准教授	武居　周	高性能電磁界解析手法の開発と有効利用技術に関する研究
		准教授	伊達　章	学習・記憶、自己組織化モデルの数理情報論に関する研究
		准教授	松本　寛樹	低電圧スイッチドキャパシタＤＡ変換器
		准教授	横道　政裕	自律移動ﾛﾎﾞｯﾄおよびﾛﾎﾞｯﾄﾋﾞｼﾞｮﾝに関する情報工学的研究